

“青年劇場”

「あの夏の絵」(福山啓子作・演出)を推奨します。

広島・長崎の惨劇から72年、被爆者の平均年齢も82才を超えた。被爆以降“二度と被爆者を出してはならない”とする被爆者の運動を原点としてやっとな国連に於いて、核兵器を非人道兵器と断定し、その使用はもとより製造・保有などを禁止する国際条約が制定された。核保有五大国に加え唯一の被爆国である日本政府はこの会議に参加せず、その批准も拒否している。

“あの夏の絵”は、広島の高中生達が、被爆者の悲惨な被爆体験を聞き、それを絵画へと写し替えたものである。演出の福山啓子さんは、被団協を通じてこの「絵」に出合ったこと、そして高校生達が証言者と何度もやり取りを繰り返し、様々な資料を調べ、構成し、書き直しを重ねて半年かけて完成させる、完成された“被爆証言を絵画化する”その“絵画も自分を圧倒するものであったが、そこに至る高校生達の真摯な姿を是非知ってほしい”と思い脚本を彼等に見ならって何度も書き直しながら完成させた。

私は“東京非核の政府の会”にあつて核兵器廃絶運動の一翼を担っているが、福山さんもまた“会”の常任世話人として新劇人会議などを代表して奮闘されている。

今回、一般社団法人日本フロンティア・ネットワーク(JFN)が設立20周年記念事業として本公演を企画してくれたことは、国連での核兵器禁止条約が決議されたことと相俟って誠に時宜を得たものであり、この運動を新しい世代に引き継いで行く上でも大きな役割をはたすものです。

JFNの設立の母体である労働者協同組合・ワーカーズコープが、“雇用と労働”という概念を越えて自らが企(起)業し、自らが労働するというすばらしい活動をされているが、加えて平和、社会的正義などの分野での新しい試みを心から歓迎するものです。

2017年9月13日

東京非核の政府の会

事務局長 三栖 義隆